

(2) 乳牛管理のシステム化による生乳生産の拡大

上川農業改良普及センター士別支所

※乳牛哺育育成部門を担う地域預託システムの推進方策（平成17年普及推進事項・根釧農試）

1. はじめに

士別市酪農経営の課題は、①良質粗飼料確保に向けた労働力確保の困難②個別機械・施設投資による経営圧迫③乳牛頭数の増加④農地面積の拡大・分散⑤労働時間の増加等があった。これらを解決するため、ほ場管理から粗飼料収穫・貯蔵、TMR調整を行って供給作業を行うTMRセンター「ディリーサポート士別」を平成13年11月酪農家23戸で設立した（供給開始は平成15年8月）。

しかし、供給農場のTMR利用に対する技術の差が大きく、また、作業委託によるコスト増に対し、経営の効率化を図るか、生乳増産しなければ経営的に成り立たないことから、総合的な技術支援を行う必要があった。

2. 活動の経過

(1) 牛群管理実施による飼養効率の向上

ア 泌乳ステージ別牛群飼養の実施

供給されたTMRを効率・効果的に給与するため、泌乳ステージ別並べ替えの提案、給与マニュアルの提示、給与指導を行った(図1)。

TMRセンターを通し、乳牛の飼料設計を随時行い、その検証を飼料メーカーと共に行った。

イ 乾乳牛舎の設置と適切な利用

搾乳牛と分離した乾乳牛専用舎の設置を進め、専用管理による作業効率の向上と分娩前後のトラブルの減少を図った。また、それによる飼養頭数の増加もねらった(図1)。

乾乳牛舎設置モデル農場を作り、乾乳牛飼養管理現地研修会を実施、波及をねらった。

(2) 生乳生産の向上

ア 増産に対する支援

TMRセンター利用による労働力の有効化をはかるため、増頭、増産をすすめ、投資をする農場に対し、労働や飼料効率を考慮した牛舎設計、増改築の提案などを行った(写真1)。

イ 新規参入の定着

TMRセンター加入の新規参入者に対し、計画から就農、軌道に乗るまで支援を行った。

(3) 育成牛の資質向上

ア 初産分娩月齢の短縮

ディリーサポート士別将来構想に基づく、哺育・育成センターの設立を支援、地域の育成牛預託システムの確立を図り、そこに獣医師と協力し、早期育成技術の導入を図った(写真2)。

TMRを活用した育成牛飼養管理マニュアルを提示し、管理の徹底を図った。

イ 優良系統の選定・交配

乳量に占める遺伝の割合が高いことから、家畜人工授精関連会社の協力のもと交配相談を実施し、乳牛の資質向上をねらった。

3. 取り組みの成果

(1) 群分け、搾乳に特化することにより生乳生産効率が向上し、1頭あたりの乳量が約1,100kg増加した(図2)。

(2) 牛群の流れをシステム化したことにより、過重労働なしで乳量生産を伸ばすことができるため、農場の大型化がすすんだ(図3)。

供給農場の合計生産出荷乳量を2,500^ℓ増加することができ、なおかつ1戸平均出荷量を442^ℓ(H15)から578^ℓ(H20)へと約130%に増産することができた。

(3) 490頭飼養可能な哺育・育成センターを設立、稼働、地域の乳牛預託システムが完成した。

初産分娩月齢が27.1ヶ月(H16)から25.6ヶ月(H19)に短縮された。

4. 今後の方向

供給農場に対する技術導入はTMRセンターを通して行っている。今後もTMRセンター「ディリーサポート士別」、関係機関と常に連携し、供給農場の技術向上を図り、経営の効率化と地域システム化のメリットを最大限に生かした所得確保を目指していく。

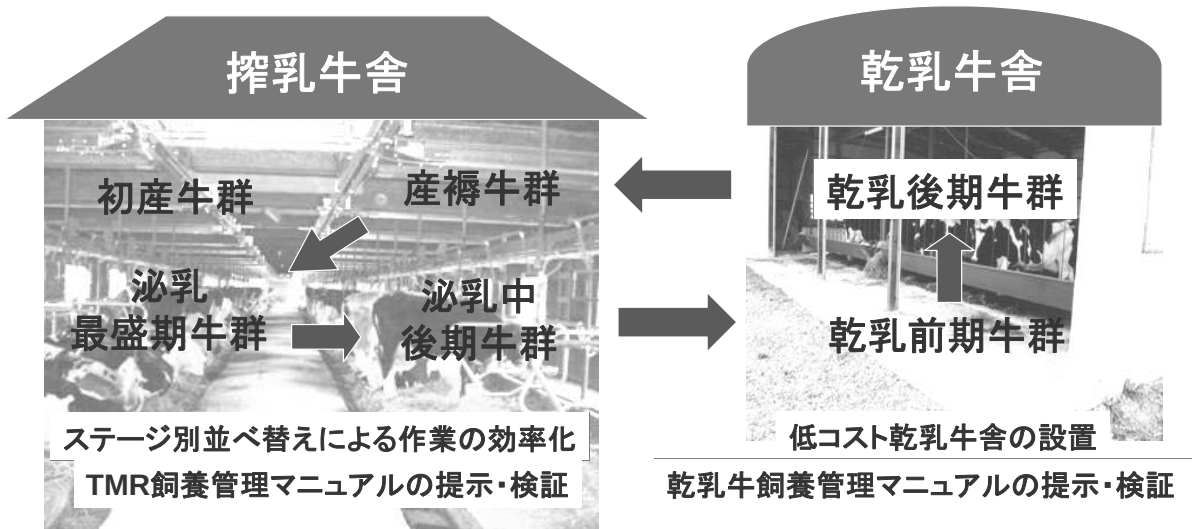


図1 ステージ別飼養管理の実施



写真1 増産へ向けた施設投資

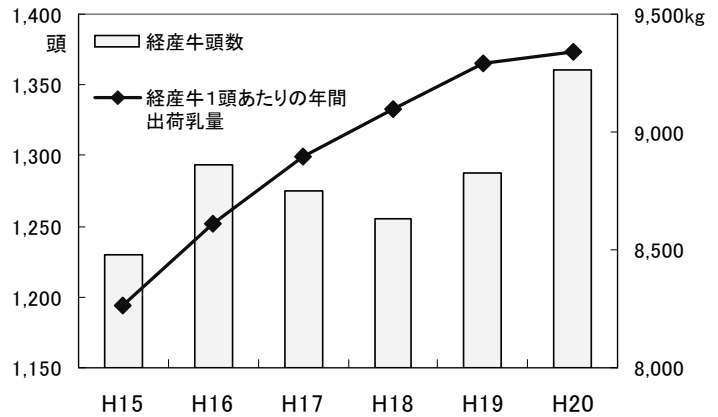


図2 構成員合計頭数の推移と1頭あたり乳量kg



写真2 哺育・育成牛預託センター設立、稼働

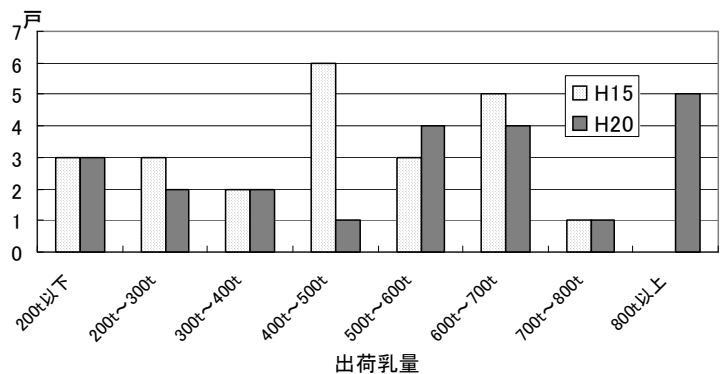


図3 出荷乳量別階層の推移 (H15→H20)